(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-169940
(P2017-169940A)
(43)公開日　平成29年9月28日(2017.9.28)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47B 77/00	(2006.01)	A47B	77/00		3B060
A47B 96/18	(2006.01)	A47B	96/18	H	
A47B 77/02	(2006.01)	A47B	77/02		

審査請求 未請求　請求項の数 3　OL　（全 10 頁）

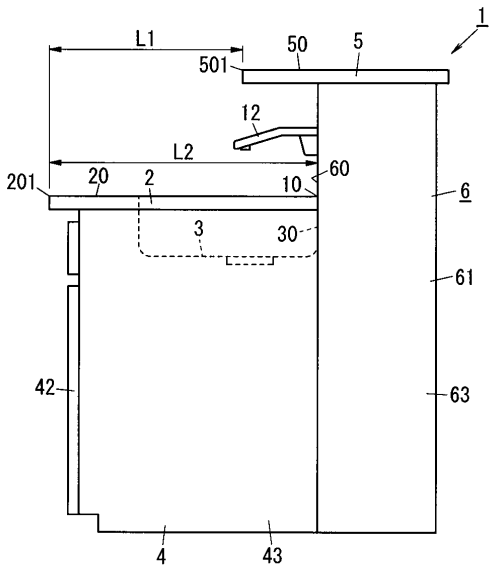
(21)出願番号　特願2016-60821 (P2016-60821)
(22)出願日　平成28年3月24日 (2016.3.24)

(71)出願人　314012076
パナソニックＩＰマネジメント株式会社
大阪府大阪市中央区城見２丁目１番６１号
(74)代理人　110002527
特許業務法人北斗特許事務所
(74)代理人　100087767
弁理士　西川　惠清
(74)代理人　100155745
弁理士　水尻　勝久
(74)代理人　100161883
弁理士　北出　英敏
(74)代理人　100162248
弁理士　木村　豊

最終頁に続く

(54)【発明の名称】厨房装置

(57)【要約】
【課題】使用者が、シンクを使いやすく、かつ、第２カウンターに皿等を載置しやすい厨房装置を提供する。
【解決手段】厨房装置１は、第１上面２０を有する第１カウンター２と、シンク３と、第１上面２０よりも上方に位置する第２上面５０を有する第２カウンター５と、を備える。第１カウンター２よりも上方でかつ第２カウンター５よりも下方に位置し、第１上面２０よりも奥側に位置する前面６０を有する。シンク３の奥面３０の上端と、前面６０の下端とが、奥行き方向において同じ第１位置１０に位置している。第１上面２０の手前側の端縁となる第１端縁２０１から、第２上面５０の手前側の端縁となる第２端縁５０１までの第１距離Ｌ１を、４００mm以上４５０mm以下とするとともに、第１端縁２０１から第１位置１０までの第２距離Ｌ２を、５００mm以上７５０mm以下とする。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
平面視で直交する幅方向および奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第１上面を有する第１カウンターと、
前記第１カウンターを支持する第１支持部と、
前記第１上面の一部に設けられるシンクと、
前記第１カウンターよりも上方に位置し、前記幅方向および前記奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第２上面を有する第２カウンターと、
前記第１カウンターよりも上方でかつ前記第２カウンターよりも下方に位置し、前記第１上面よりも前記奥行き方向の奥側に位置して前記奥行き方向の手前側を向いて露出する前面を有し、前記第２カウンターを支持する第２支持部と、を備え、
前記シンクの前記奥側に位置して前記手前側を向いて露出する奥面の上端と、前記前面の下端とが、前記奥行き方向において同じ第１位置に位置しており、
平面視において、前記第１上面の前記手前側の端縁となる第１端縁から、前記第２上面の前記手前側の端縁となる第２端縁までの距離を、４００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下とするとともに、前記第１端縁から前記第１位置までの距離を、５００ｍｍ以上７５０ｍｍ以下とすることを特徴とする厨房装置。
【請求項２】
前記シンクが設けられる部分の前記幅方向に垂直な断面において、前記前面の前記第１位置から第１の所定長さ離れた箇所までの部分と、前記奥面の前記第１位置から第２の所定長さ離れた箇所までの部分とが、少なくとも所定の曲率以下の連続した曲線で構成されていることを特徴とする請求項１記載の厨房装置。
【請求項３】
前記曲線が円弧であることを特徴とする請求項２記載の厨房装置。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、厨房装置に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、カウンターを備えた厨房装置が知られている（例えば特許文献１参照）。厨房装置は、カウンターとして、シンクが設けられ調理スペースを有するカウンター本体と、シンクおよび調理スペースの奥側に設けられる、カウンター本体とは別のサブカウンターを有している。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００７－０１４７５０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
従来の厨房装置にあっては、シンクの奥側にサブカウンターが設けられているため、シンクの奥行き長さを確保した場合、使用者からサブカウンターまでの距離が長くなる。この結果、使用者が皿等をサブカウンターに載置しにくいものであった。また、使用者からサブカウンターまでの距離を短くすべく、シンクの奥行き長さを短くすると、シンクが使いにくいものとなるものであった。
【０００５】
本発明は上記従来の問題点に鑑みて発明したものであり、使用者が、シンクを使いやすく、かつ、第２カウンターに皿等を載置しやすい厨房装置を提供することにある。
【課題を解決するための手段】

【０００６】
上記課題を解決するために、本発明に係る一態様の厨房装置は、第１カウンターと、第１支持部と、シンクと、第２カウンターと、第２支持部と、を備える。前記第１カウンターは、平面視で直交する幅方向および奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第１上面を有する。前記第１支持部は、前記第１カウンターを支持する。前記シンクは、前記第１上面の一部に設けられる。前記第２カウンターは、前記第１カウンターよりも上方に位置し、前記幅方向および前記奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第２上面を有する。前記第２支持部は、前記第１カウンターよりも上方でかつ前記第２カウンターよりも下方に位置し、前記第１上面よりも前記奥行き方向の奥側に位置して前記奥行き方向の手前側を向いて露出する前面を有し、前記第２カウンターを支持する。前記シンクの前記奥側に位置して前記手前側を向いて露出する奥面の上端と、前記前面の下端とが、前記奥行き方向において同じ第１位置に位置している。平面視において、前記第１上面の前記手前側の端縁となる第１端縁から、前記第２上面の前記手前側の端縁となる第２端縁までの距離を、４００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下とする。前記第１端縁から前記第１位置までの距離を、５００ｍｍ以上７５０ｍｍ以下とする。
【発明の効果】
【０００７】
本発明に係る一態様の厨房装置にあっては、使用者が、シンクを使いやすく、かつ、第２カウンターに皿等を載置しやすい。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】図１は、本発明の第１実施形態に係る厨房装置の斜視図である。
【図２】図２は、同上の厨房装置の側面図である。
【図３】図３は、本発明の第２実施形態に係る厨房装置の側面図である。
【発明を実施するための形態】
【０００９】
本発明は、厨房装置に関し、詳しくは、第１カウンターと、第１カウンターよりも上方に位置する第２カウンターとを有する厨房装置に関するものである。
【００１０】
第１実施形態の厨房装置について、添付図面に基いて説明する。
【００１１】
図１に示すように、厨房装置１は、第１カウンター２と、シンク３と、第１支持部４と、第２カウンター５と、第２支持部６と、を備える。
【００１２】
第１カウンター２は、人造大理石により形成される、平面視矩形状をした板である。
【００１３】
第１カウンター２は、調理容器、調理器具、食材等が載置される、上方を向いて露出する第１上面２０を有する。第１上面２０は、第１カウンター２の所定の範囲において上方を向いて露出するように形成されるものである。
【００１４】
第１上面２０が占める所定の範囲とは、平面視で直交する幅方向および奥行き方向における、面積を有する範囲である。ここで、方向を定義する。第１カウンター２については、設計上、使用者が位置する方向が定められており、この使用者が位置する側を手前側とするとともにその反対側を奥側とし、手前側と奥側とを結ぶ方向を奥行き方向とする。さらに、左側および右側を、使用者が奥側を向いたときの左側および右側とし、左側と右側とを結ぶ方向を幅方向とする。
【００１５】
本実施形態では、所定の範囲とは第１カウンター２の上面全体であり、この上面全体が第１上面２０となる。第１上面２０は、平面である。
【００１６】

第１上面２０の一部に、シンク３が設けられる。シンク３は、第１カウンター２と同じ人造大理石により形成される、平面視矩形状をしたものである。シンク３は、第１上面２０の右側の端部近傍に設けられている。第１カウンター２には、シンク３が設けられる部分に、開口２１が設けられる。この開口２１の内端縁に、シンク３の上端縁が接続される。シンク３の上端縁と第１カウンター２の開口２１の内端縁との間にコーキング材が設けられる。

【００１７】

シンク３の奥面３０、すなわち、シンク３の奥側に位置して手前側を向いて露出する面の上端と、第１上面２０の奥端とが、奥行き方向において同位置（これを第１位置１０とする）に位置している。

【００１８】

本実施形態では、第１上面２０のシンク３が設けられる部分と別の部分に、加熱調理器１１が設けられる。加熱調理器１１は、電磁誘導式加熱調理器（いわゆるＩＨ調理器）である。加熱調理器１１は、第１上面２０の左側の端部近傍に設けられている。第１カウンター２には、加熱調理器１１が設けられる部分に、開口２２が設けられる。この開口２２の内端縁に、加熱調理器１１の外端縁が接続される。加熱調理器１１の上端縁と第１カウンター２の開口２２の内端縁との間にコーキング材が設けられる。

【００１９】

本実施形態では、第１上面２０のシンク３が設けられる部分と加熱調理器１１が設けられる部分の間が、調理スペース２３となっている。

【００２０】

第１カウンター２は、第１支持部４により支持される。第１支持部４は、厨房の床に設置されるキャビネット４１により構成される。

【００２１】

キャビネット４１は、前板４２と、側板４３と、背板と、天板としての第１カウンター２と、底板と、を備える箱状をしたものである。すなわち、キャビネット４１は、第１支持部４と第１カウンター２とを備えるものである。前板４２に開口が設けられ、開口を開閉可能に閉塞する扉４４が設けられる。キャビネット４１内の空間が、開口より入れられた物品を収納する収納空間となる。

【００２２】

第２カウンター５は、第１カウンター２よりも上方に位置する。第２カウンター５は、木質材により形成される、平面視矩形状をした板である。

【００２３】

第２カウンター５は、食器等が載置される、上方を向いて露出する第２上面５０を有する。第２上面５０は、第２カウンター５の幅方向および奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出するように形成されるものである。なお、第２カウンター５の所定の範囲は、第１カウンター２の所定の範囲とは別である。第２上面５０は、平面である。

【００２４】

第２カウンター５は、第２支持部６により支持される。第２支持部６は、キャビネット６１により構成される。

【００２５】

キャビネット６１は、前板６２と、側板６３と、背板と、天板としての第２カウンター５と、底板と、を備える箱状をしたものである。

【００２６】

第２支持部６は、第１カウンター２の第１上面２０よりも上方でかつ第２カウンター５よりも下方に位置する前面６０を有する。前面６０は、第１上面２０よりも奥側に位置して、手前側を向いて露出する。前面６０の下端は、第１位置１０に位置しており、シンク３の奥面３０の上端と同位置に位置して連続している。

【００２７】

前面６０にはカラン１２が設けられている。

【００２８】
図２に示すように、平面視において、第１上面２０の手前側の端縁となる第１端縁２０１から、第２上面５０の手前側の端縁となる第２端縁５０１までの距離（第１距離Ｌ１とする）を、４００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下とするものである。さらに、平面視において、第１端縁２０１から第１位置１０までの距離（第２距離Ｌ２とする）を、５００ｍｍ以上７５０ｍｍ以下とするものである。
【００２９】
厨房装置１の使用者としては、日本人の平均的な体格（身長約１５８ｃｍ、腕の長さ約６７ｃｍ）の成人女性を想定している。第１距離Ｌ１を４００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下とすることにより、想定される使用者が、第１端縁２０１より手前側に数ｃｍ～１５ｃｍの間隔をあけて立ったとき、特に腕を伸ばす努力をしなくても、皿等を第２カウンター５の第２上面５０に載置しやすい。
【００３０】
また、第２距離Ｌ２を５００ｍｍ以上７５０ｍｍ以下とすることにより、使用者が、シンク３に調理容器等を置きやすい。すなわち、第１端縁２０１よりシンク３の奥面３０までの距離が短くなっていないため、シンク３が狭くて使いにくいといったことがない。
【００３１】
この結果、使用者がシンク３を使いやすく、かつ、第２カウンター５の第２上面５０に皿等を載置しやすい厨房装置１となる。
【００３２】
次に、第２実施形態の厨房装置１について、図３に基いて説明する。なお、第２実施形態の厨房装置１は、大部分において第１実施形態の厨房装置１と同じであるため、同じ構成については同符号の末尾に「Ａ」を付した符号を用いて説明を省略し、主に異なる構成について説明する。
【００３３】
第２実施形態では、シンク３が設けられる部分の幅方向に垂直な断面において、第１位置１０Ａを挟んで前面６０Ａと奥面３０Ａとが連続した曲線で構成されている。前面６０Ａ側においては、第１位置１０Ａから第１の所定長さ離れた箇所６０１Ａまでの部分６０２Ａが該当する。第２実施形態では、前面６０Ａの全面が部分６０２Ａに該当する。
【００３４】
奥面３０Ａ側においては、第１位置１０Ａから第２の所定長さ離れた箇所３０１Ａまでの部分３０２Ａが該当する。第２実施形態では、奥面３０Ａの一部が部分３０２Ａに該当する。
【００３５】
この部分６０２Ａおよび部分３０２Ａにより構成される曲線は、少なくとも所定の曲率以下で連続するものである。第２実施形態では、所定の曲率に対応する曲率半径Ｒ（ここで、曲率＝１／Ｒ）は、７０ｃｍである。第２実施形態では、部分６０２Ａおよび部分３０２Ａがなす曲線は、一様な曲率半径Ｒを有する円弧である。
【００３６】
第２実施形態では、使用者がシンク３Ａを使いやすく、かつ、第２カウンター５Ａの第２上面５０Ａに皿等を載置しやすいのに加えて、以下の効果を奏する。
【００３７】
すなわち、前面６０Ａの部分６０２Ａと奥面３０Ａの部分３０２Ａとが、少なくとも所定の曲率以下の連続した曲線で構成されることにより、鋭いエッジや隅部が形成されず、清掃性が良いものである。
【００３８】
また、曲線が特に円弧であることにより、円弧の中心から前面６０Ａの部分６０２Ａおよび奥面３０Ａの部分３０２Ａまでの距離が一定となり、より一層使いやすくなるとともに意匠性が向上する。
【００３９】

以下、第１実施形態および第２実施形態における厨房装置１について、さらに説明を加える。

【００４０】

第１カウンター２の材質は、人造大理石ではない一般の樹脂、木材または木質材、金属、ガラス等、特に限定されない。また、第１カウンター２の平面視における形状は、特に限定されない。また、第１カウンター２の厚みは、特に限定されない。

【００４１】

第１上面２０は、必ずしも平面でなくてもよい。また、第１上面２０の第１端縁２０１は幅方向に伸びる直線状をしていることが好ましい。

【００４２】

シンク３の材質は、人造大理石ではない一般の樹脂、木材または木質材、金属、ガラス等、特に限定されない。また、シンク３の平面視における形状、広さは、特に限定されない。シンク３の手前側に位置して奥側を向いて露出する手前面の第１端縁２０１からの距離は、例えば５ｃｍ、１０ｃｍ等が挙げられるが、特に限定されない。

【００４３】

第１支持部４を構成するキャビネット４１は、前板４２、側板４３、背板、底板のいずれかを備えなくてもよく、扉４４が設けられなくてもよい。また、第１支持部４は、キャビネット４１ではなく、例えば柱を有する脚部等でもよく、特に限定されない。

【００４４】

第２カウンター５の材質は、樹脂（特に人造大理石）、木材、金属、ガラス等、特に限定されない。また、第２カウンター５の平面視における形状は、特に限定されない。また、第２カウンター５の厚みは、特に限定されない。

【００４５】

第２上面５０は、必ずしも平面でなくてもよい。

【００４６】

第２支持部６を構成するキャビネット６１は、前板６２、側板６３、背板、底板のいずれかを備えなくてもよい。また、第２支持部６は、背板に開口が設けられ、開口を開閉可能に閉塞する扉が設けられてもよい。キャビネット６１内の空間が、開口より入れられた物品を収納する収納空間となる。また、キャビネット６１内の空間が、配管を通す空間として利用されてもよい。また、第２支持部６は、キャビネット６１ではなく、板状をした部材でもよく、特に限定されない。

【００４７】

また、第１カウンター２上に第２支持部６が設けられてもよく、この場合には、第２支持部６が設けられた部分を除く範囲が所定の範囲となり、この所定の範囲を占める部分が第１上面２０となる。

【００４８】

また、第１支持部４と第２支持部６とが同一のキャビネットにより構成されてもよい。

【００４９】

加熱調理器１１は、電磁誘導式加熱調理器ではなく、ガスコンロ、電熱線ヒータ等であってもよく、特に限定されない。加熱調理器１１は、厨房装置１に設けられなくてもよい。

【００５０】

カラン１２は、第２支持部６の前面６０ではなく、第１カウンター２に設けられてもよい。例えば、第１カウンター２のシンク３が設けられる部分の奥側に開口が設けられ、この開口にカラン１２が設けられてもよい。

【００５１】

厨房装置１の想定される使用者としては、日本人の平均的な体格の成人女性に限定されない。

【００５２】

第２実施形態において、前面６０の全面が、曲線を構成する部分６０２Ａに該当しなく

てもよい。また、奥面３０の全面が、曲線を構成する部分３０２Ａに該当しなくてもよい。また、曲率半径Ｒは、例えば５０ｃｍ、７０ｃｍ等が挙げられるが、５０ｃｍ未満、７０ｃｍを超えてもよく、特に限定されない。

【００５３】

以上、述べた第１実施形態および第２実施形態から明らかなように、本発明に係る第１の態様の厨房装置１は、第１カウンター２と、シンク３と、第１支持部４と、第２カウンター５と、第２支持部６と、を備える。第１カウンター２は、平面視で直交する幅方向および奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第１上面２０を有する。シンク３は、第１上面２０の一部に設けられる。第１支持部４は、第１カウンター２を支持する。第２カウンター５は、第１カウンター２よりも上方に位置し、幅方向および奥行き方向の所定の範囲において上方を向いて露出する第２上面５０を有する。第２支持部６は、第１カウンター２よりも上方でかつ第２カウンター５よりも下方に位置し、第１上面２０よりも奥行き方向の奥側に位置して奥行き方向の手前側を向いて露出する前面６０を有し、第２カウンター５を支持する。シンク３の奥側に位置して手前側を向いて露出する奥面３０の上端と、前面６０の下端とが、奥行き方向において同じ第１位置１０に位置している。平面視において、第１上面２０の手前側の端縁となる第１端縁２０１から、第２上面５０の手前側の端縁となる第２端縁５０１までの第１距離Ｌ１を、４００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下とするとともに、第１端縁２０１から第１位置１０までの第２距離Ｌ２を、５００ｍｍ以上７５０ｍｍ以下とする。

【００５４】

第１の態様によれば、使用者が特に腕を伸ばす努力をしなくても、皿等を第２カウンター５の第２上面５０に載置しやすい。また、シンク３が狭くて使いにくいといったことがない。

【００５５】

本発明に係る第２の態様の厨房装置１は付加的なものであり、第１の態様との組み合わせにより実現される。第２の態様の厨房装置１は、シンク３が設けられる部分の幅方向に垂直な断面において、前面６０の第１位置１０から第１の所定長さ離れた箇所６０１Ａまでの部分６０２Ａと、奥面３０の第１位置１０から第２の所定長さ離れた箇所３０１Ａまでの部分３０２Ａとが、少なくとも所定の曲率以下の連続した曲線で構成されている。

【００５６】

第２の態様によれば、前面６０の部分６０２Ａと奥面３０の部分３０２Ａとに鋭いエッジや隅部が形成されず、清掃性が良いものである。

【００５７】

本発明に係る第３の態様の厨房装置１は付加的なものであり、第２の態様との組み合わせにより実現される。第３の態様の厨房装置１は、前面６０の部分６０２Ａと奥面３０の部分３０２Ａとがなす曲線が円弧である。

【００５８】

第３の態様によれば、円弧の中心から前面６０の部分６０２Ａおよび奥面３０の部分３０２Ａまでの距離が一定となり、より一層使いやすくなるとともに意匠性が向上する。

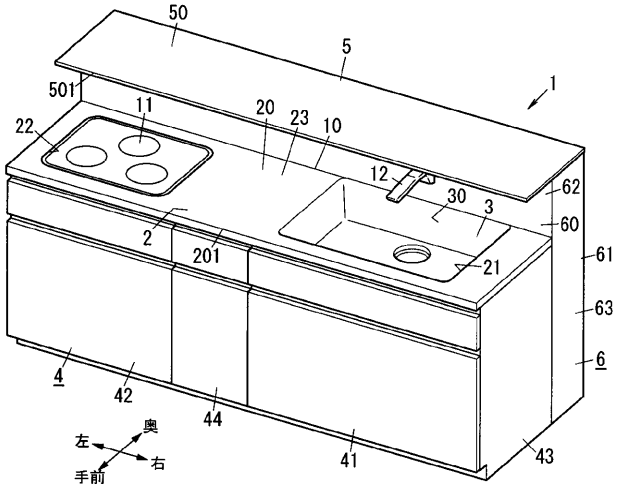
【符号の説明】

【００５９】

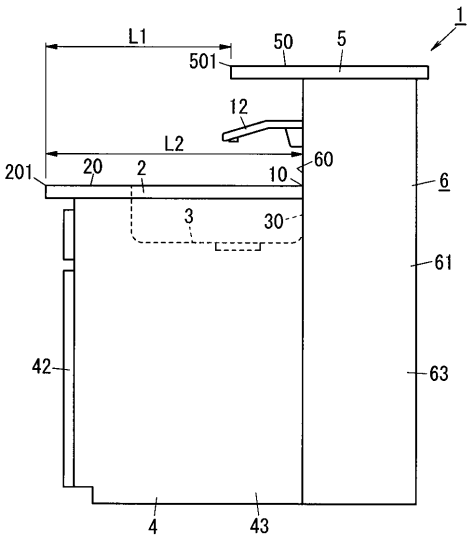
１　厨房装置
１０　第１位置
２　第１カウンター
２０　第１上面
２０１　第１端縁
３　シンク
３０　奥面
３０１Ａ　第２の所定長さ離れた箇所
３０２Ａ　第２の所定長さ離れた箇所までの部分

４　　第１支持部
５　　第２カウンター
５０　第２上面
５０１　第２端縁
６　　第２支持部
６０　前面
６０１Ａ　第１の所定長さ離れた箇所
６０２Ａ　第１の所定長さ離れた箇所までの部分
Ｌ１　第１距離
Ｌ２　第２距離

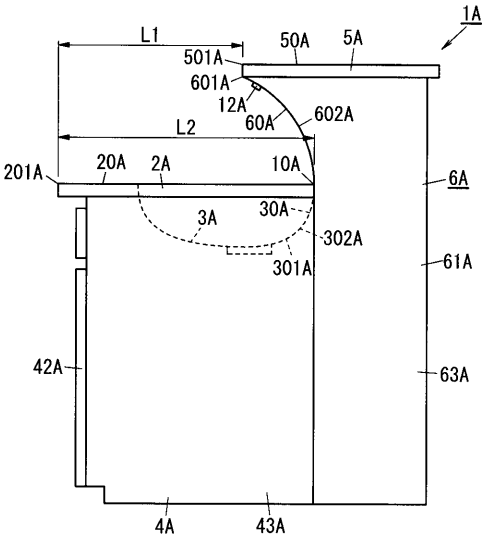
【図１】



【図２】



【図３】


1A
L1
50A
5A
501A
601A
12A
60A
602A
L2
201A
20A
2A
10A
6A
3A
30A
302A
301A
61A
42A
63A
4A
43A

フロントページの続き

(72)発明者　黒　香織
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　北村　仁史
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　長谷川　賢治
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　齋藤　あかね
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　木山　裕子
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　田中　裕也
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内
(72)発明者　山口　重行
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内

Ｆターム(参考) 3B060 CA02　DA01　DA11